

平成22年3月期 第2四半期累計期間  
(平成21年4月～9月)

# 業績レビューと見通し

平成21年11月13日

株式会社 昭和システムエンジニアリング

# 目次

## 平成22年3月期 第2四半期累計期間(平成21年4月～9月) 業績レビュー

1. 経営環境(平成22年3月期第2四半期累計期間) .....	4
2. 業績概要 .....	5
3. 業績推移 .....	6
4. 事業別業績推移(ソフトウェア開発事業) .....	7
5. 事業別業績推移(入力データ作成事業) .....	8
6. 事業別業績推移(受託計算事業) .....	9
7. 業種別売上比率(全社) .....	10
8. 貸借対照表 .....	11
9. キャッシュフローの推移 .....	12

## 平成22年3月期の見通し

10. 経営環境(平成22年3月期第2四半期累計期間) .....	14
11. 業績見通し(事業別) .....	15
12. 業績見通し(全社) .....	16
13. 業績推移見通し .....	17

平成22年3月期 第2四半期累計期間  
(平成21年4月～9月)

# 業績レビュー

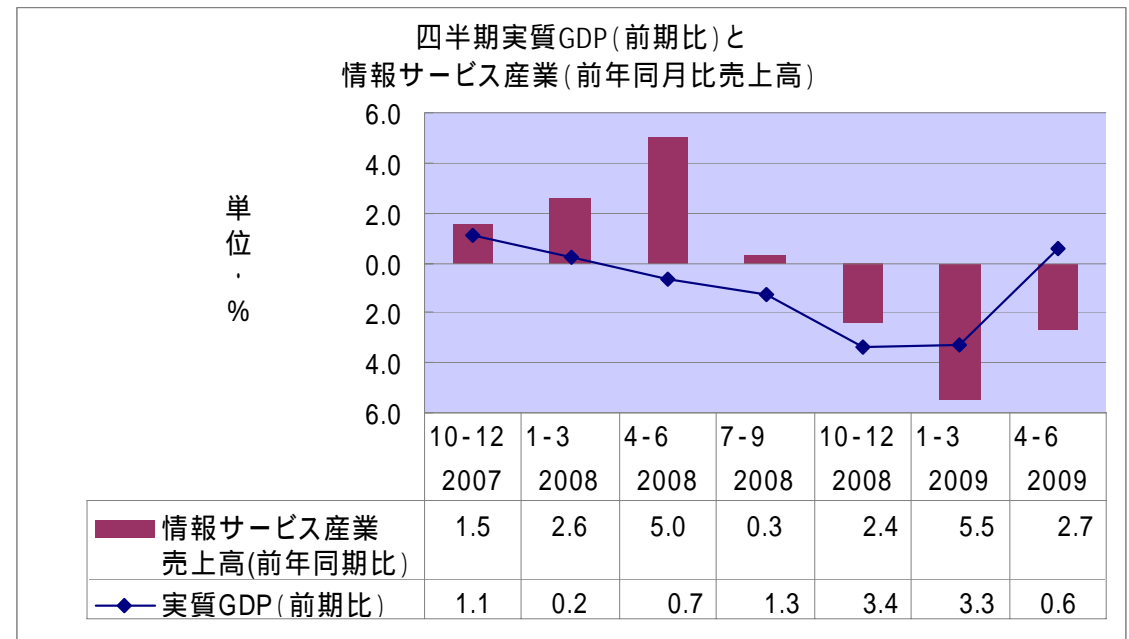
# 1. 経営環境 (平成22年3月期第2四半期累計期間)

わが国経済は、4 - 6月期実質GDPが前期比プラス0.6% (年率換算2.3%) に転じたものの、国内需要はマイナス1.0%であり、外需頼みの状況が続きました。

企業の投資マインドは改善の兆しを見せず、IT投資に対しても慎重姿勢が続きました。

情報サービス産業の前年同期比売上高は、4 - 6月期はマイナス2.7%、以降7月単月はマイナス1.3%、8月単月もマイナス5.4%となりました。

実質GDPと情報サービス産業(四半期)



出典

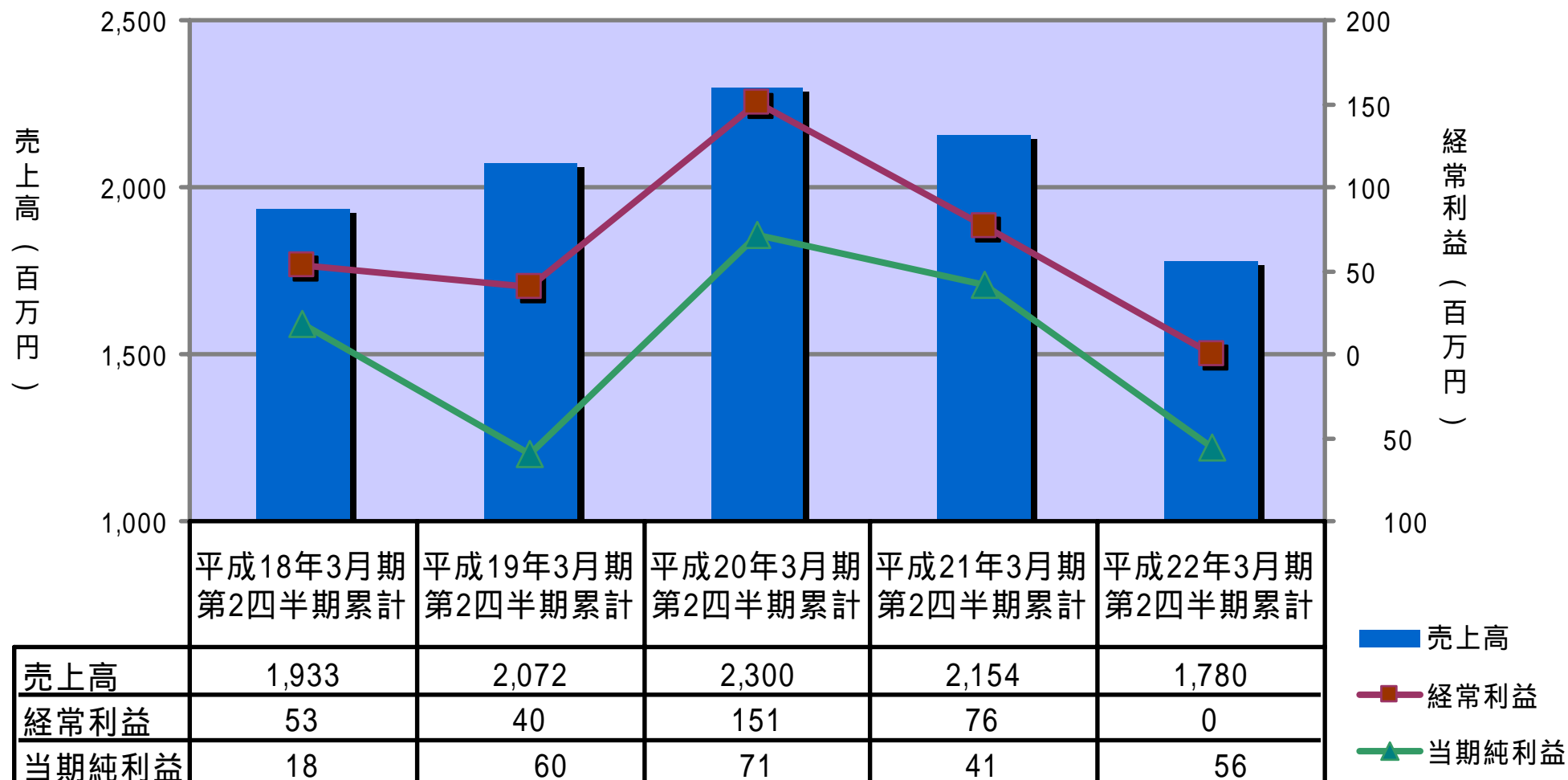
- ・実質GDP: 内閣府
- ・情報サービス産業売上高: 経済産業省特定サービス産業動態統計調査

## 2. 業績概要

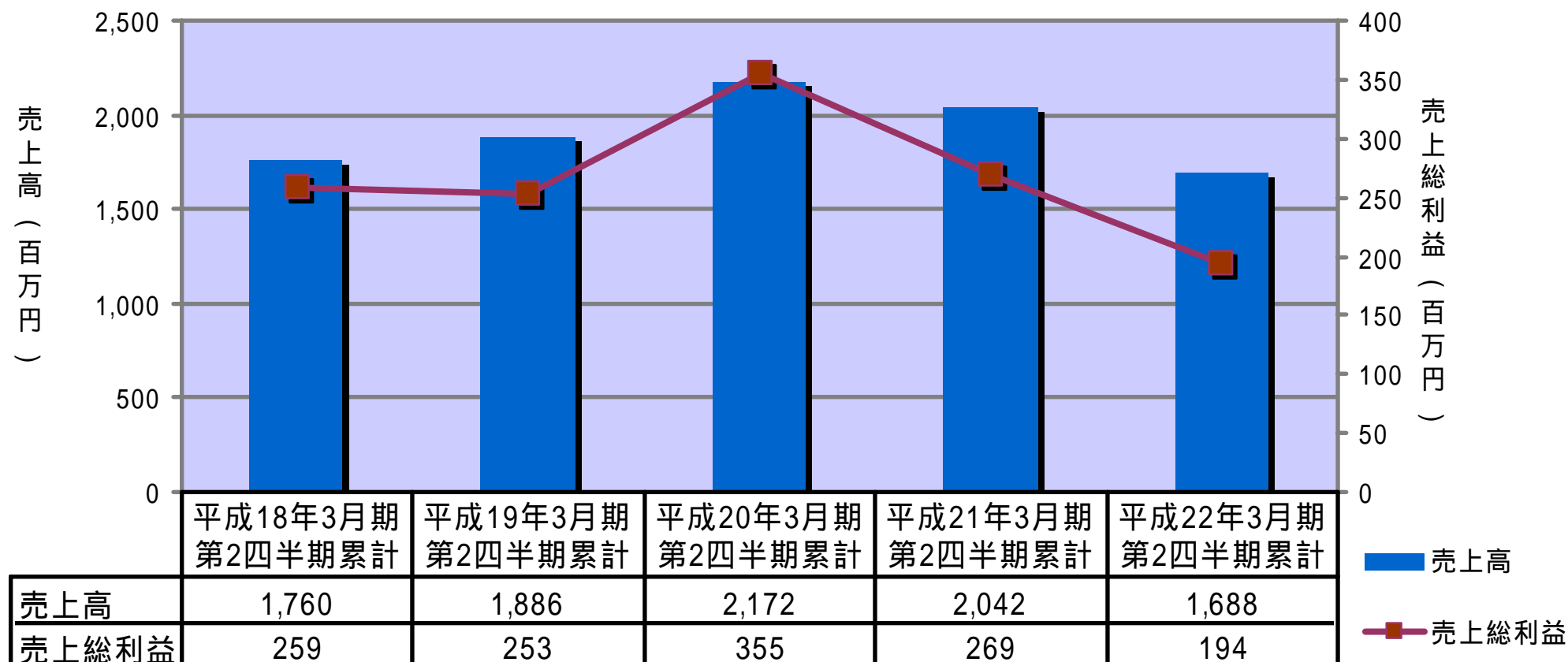
《売上高》	1,780百万円	(前年同期比	17.3%)
《経常利益》	0.13百万円	(前年同期比	99.8%)
《当期純利益》	56百万円	(前年同期比	—)

顧客企業のIT投資に対する慎重姿勢は改善されず、減収、減益となりました。保有有価証券評価損(50百万円)を計上したため、当期純利益はマイナスとなりました。

### 3. 業績推移

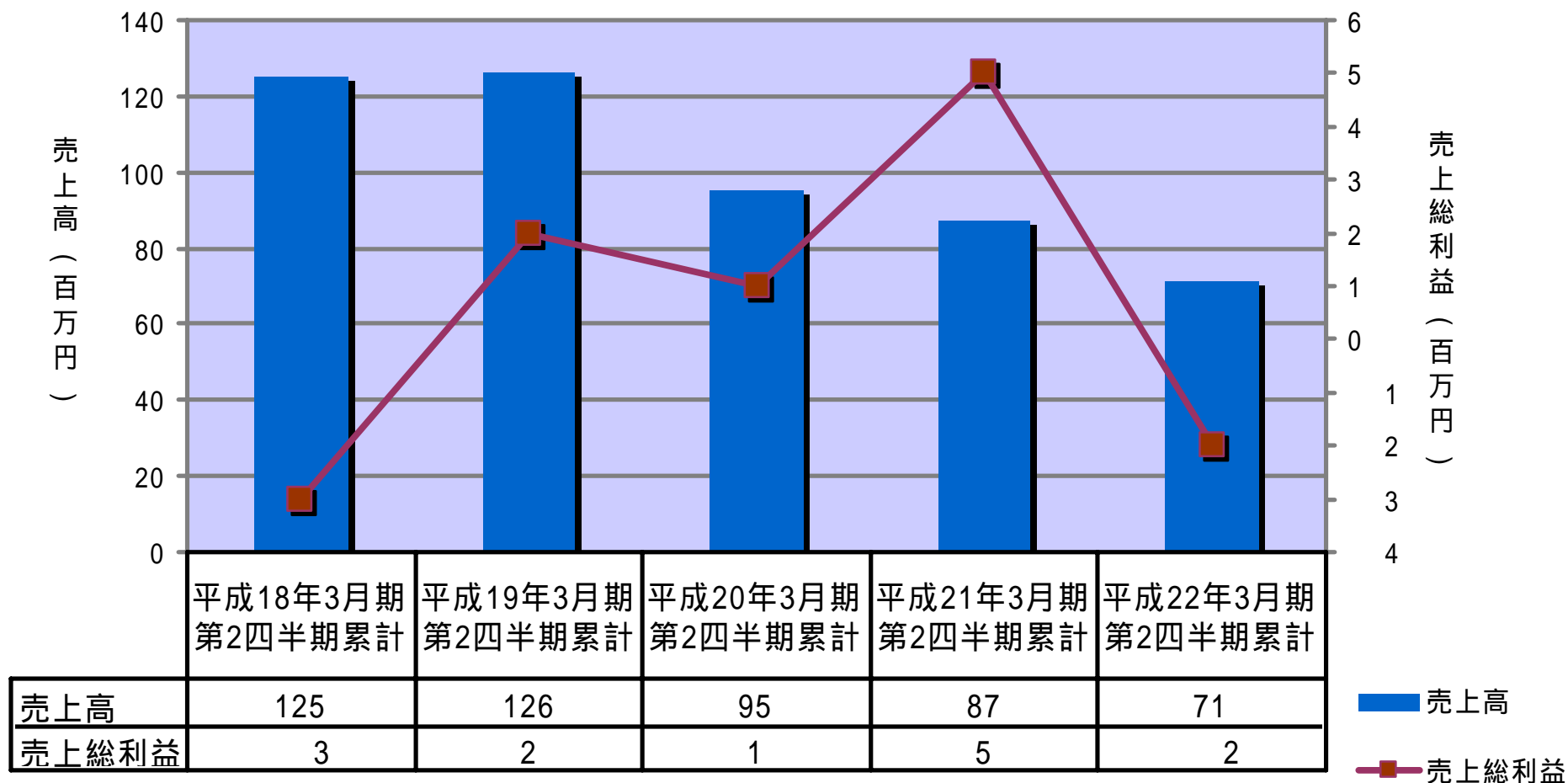


## 4. 事業別業績推移 (ソフトウェア開発事業)



ソフトウェア開発事業は、顧客企業のIT投資抑制傾向の影響を強く受け、さらには値引き要請も相次ぎ、減収・減益となりました。

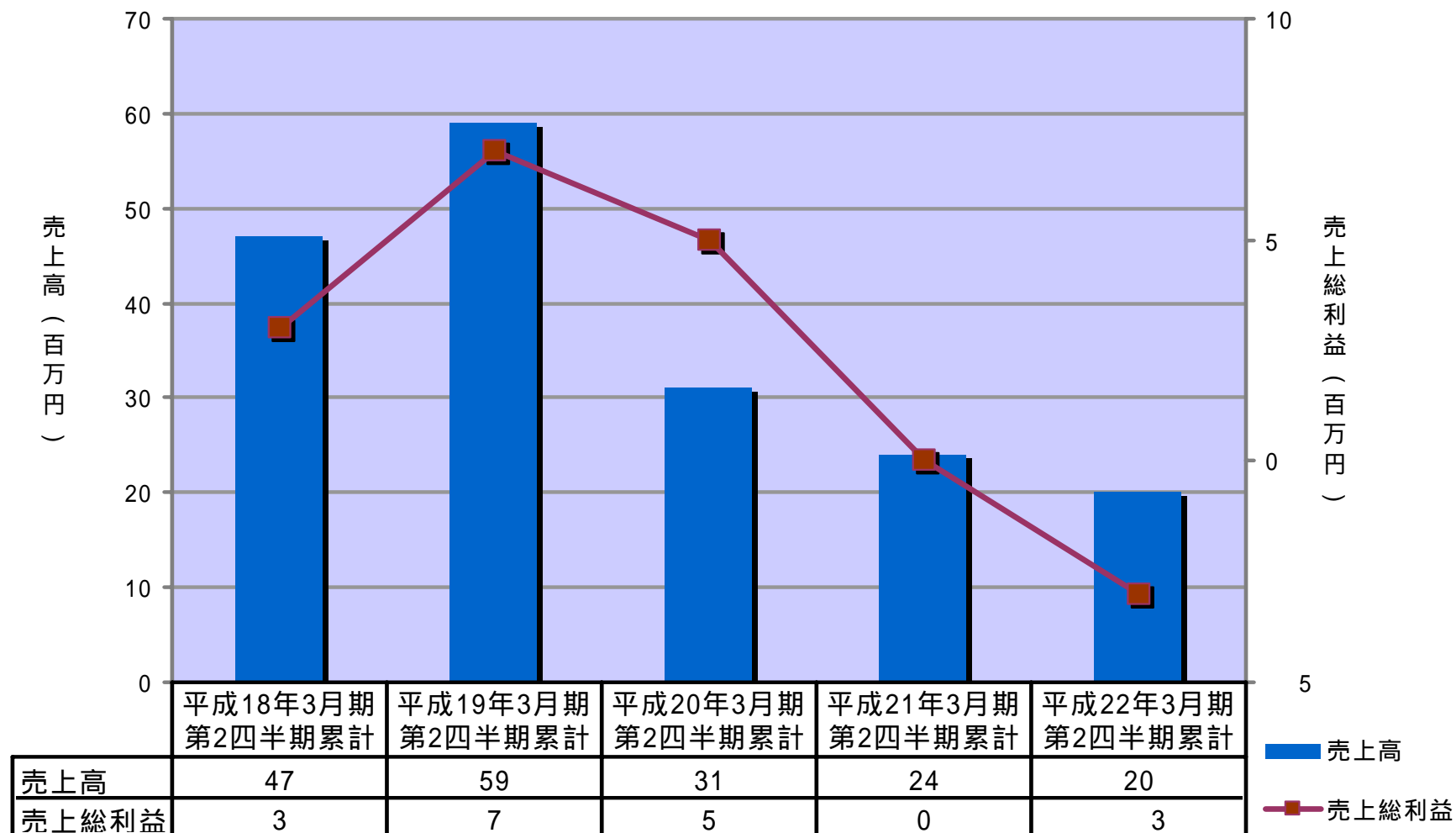
## 5. 事業別業績推移 (入力データ作成事業)



市場規模漸減傾向の中、徹底した生産性向上とコスト削減に努めましたが、価格競争の影響もあり、減益となりました。



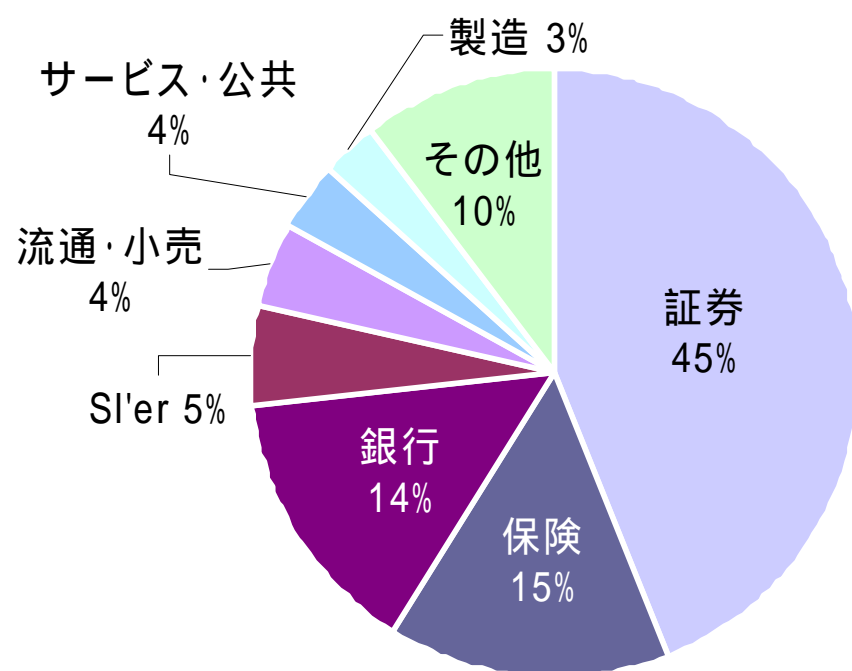
## 6. 事業別業績推移 (受託計算事業)



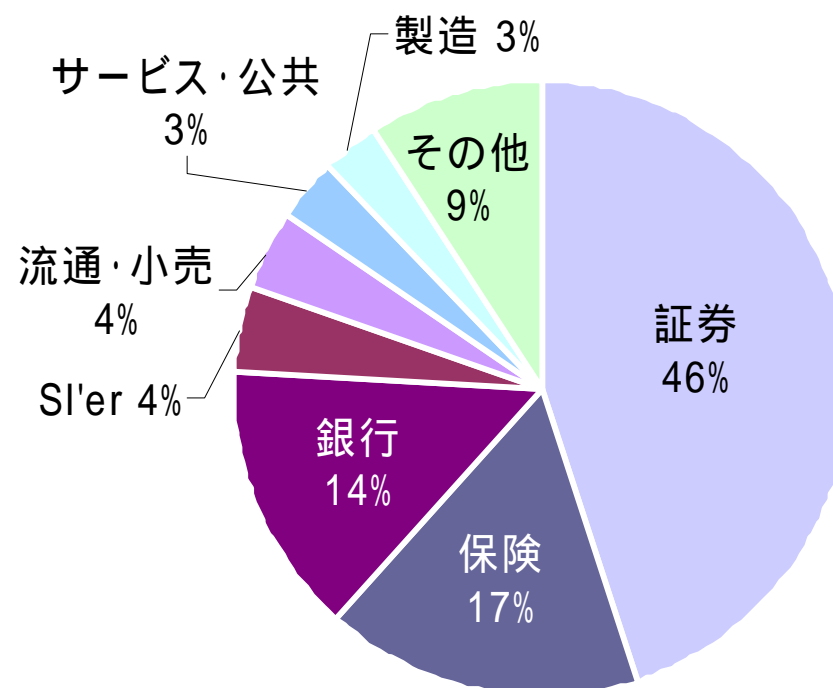
受託計算事業は、景気低迷の影響を受け、顧客からの業務量が減少し減収・減益となりました。

## 7. 業種別売上比率(全社)

平成21年3月期  
第2四半期累計

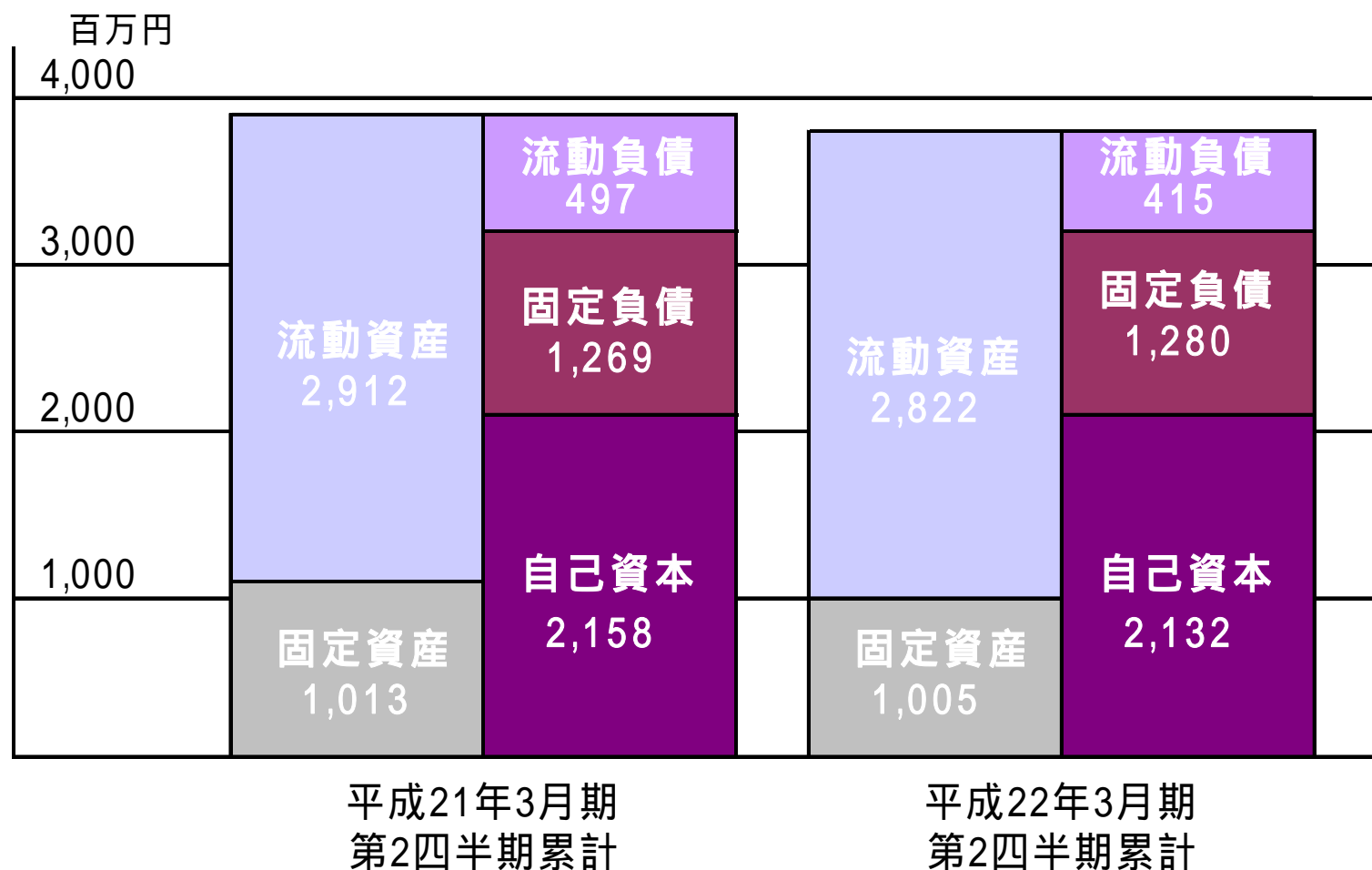


平成22年3月期  
第2四半期累計



業種別売上は、ほぼ前年と同様な構成になりました。

## 8. 貸借対照表



常に自己資本比率50%以上を維持する健全経営を続けております。  
流動比率が600%以上あり、安全性も充分です。

## 9. キャッシュフローの推移

単位: 百万円

	平成19年3月期 第2四半期累計	平成20年3月期 第2四半期累計	平成21年3月期 第2四半期累計	平成22年3月期 第2四半期累計
営業活動によるキャッシュフロー	373	240	25	114
投資活動によるキャッシュフロー	9	15	327	43
財務活動によるキャッシュフロー	62	47	57	47
現金及び現金同等物の増減額	445	177	410	205
現金及び現金同等物の期末残高	1,605	1,380	1,233	1,158
参考: 現金及び預金の期末残高 (預入期間が3か月を超える定期預金を含む)	1,605	1,980	2,183	2,108

# 平成22年3月期の見通し

## 10. 経営環境(平成22年3月期第2四半期累計期間)

わが国経済については、4 - 6月期実質GDPがプラスに転じたこともあり、一部には「底を打った」との観測も散見されますが、二番底を懸念するむきもあり、なお下振れリスクを排除しきれません。

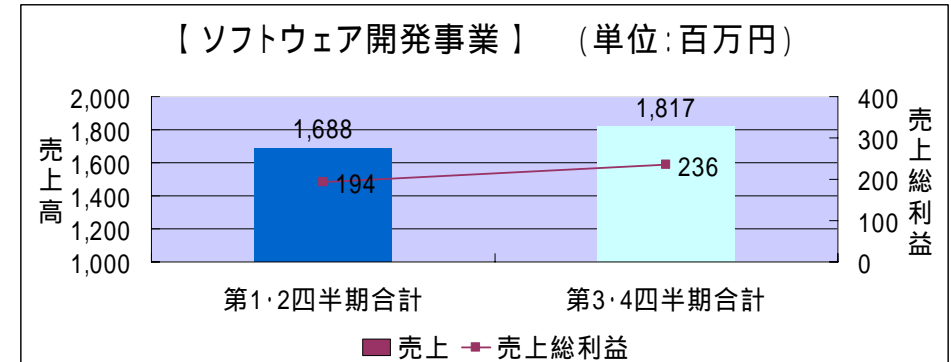
顧客企業のIT投資は、相変わらず足元の業績を見ながらの慎重なものではありますが、下期に向けて、一部には動きが出始めております。

情報サービス産業は、4 - 6月期に続き、7月、8月も前年同月比マイナス成長であり、先行き不透明な状況が続いております。

# 11. 業績見通し(事業別)

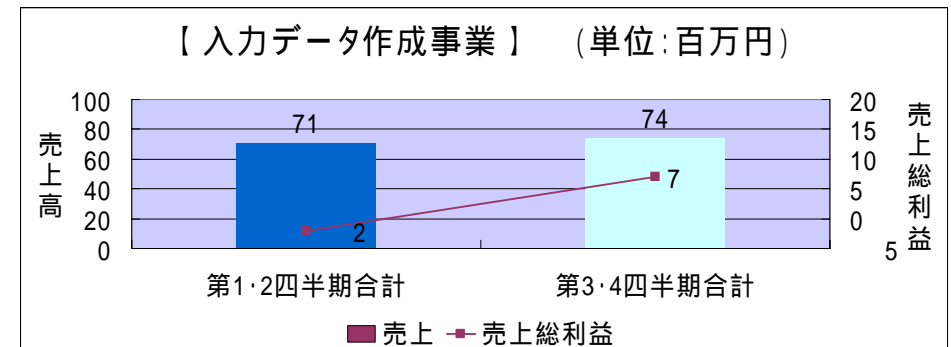
## ソフトウェア開発事業

第3、第4四半期は金融機関の制度変更対応や顧客の事業構造変革(事業統合、合併等)に伴う案件及び費用削減を狙ったダウンサイジング案件等が具体化してきており、第2四半期累計期間に比べ売上増、利益増となる見通しです。



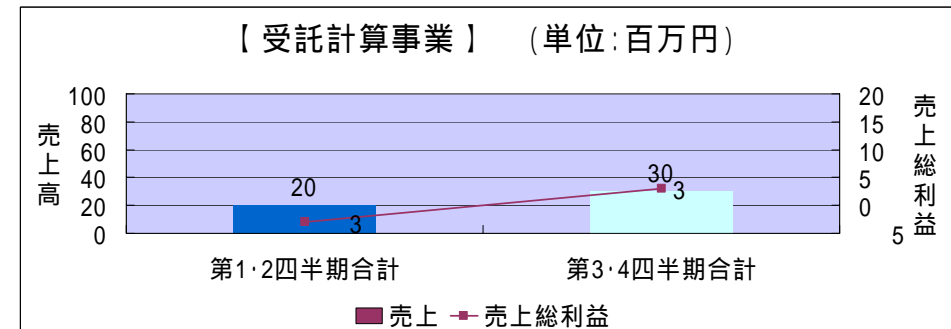
## 入力データ作成事業

第2四半期までに実施したコスト削減策と第3四半期に実施する予定の生産性向上策が寄与し、通期では売上総利益を確保できる見通しです。



## 受託計算事業

既存顧客へのコンタクト強化及び徹底したコスト削減効果により、売上、利益共に第2四半期累計期間より改善する見通しです。



## 12. 業績見通し(全社)

前述の通り、第3、第4四半期の事業別業績はいずれも第2四半期累計期間を上回る見通しですが、全社売上の95%を占めるソフトウェア開発事業の低迷から平成22年3月期の全社業績は以下のように見込んでおります。

単位:百万円

	平成21年 3月期	平成22年3月期		
	実績	見通し	増減	増減率
売上高	4,229	3,700	529	12.5%
経常利益	209	75	134	64.1%
当期純利益	91	20	111	

\* 将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる場合があります。



# 12. 業績推移見通し(全社)

